

講義名	スポーツ施設マネジメント			授業形態	
担当教員	山口 志郎 / 与那覇 秀勲	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

#### 主題と概要

スポーツ庁は、2016年秋にスポーツ市場の規模は、2015年の5.5兆円から2025年には15兆円へ増やすと目標を掲げた。また、2019年ラグビーワールドカップ、2021東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されて以降、スポーツ施設マネジメントの注目度は年々増している。スポーツ市場の拡大とスポーツ参加者（実態者）、スポーツ観戦者の増大において、質の高い施設マネジメントが不可欠である。この施設マネジメントでは、多様なスポーツ施設（公共施設、指定管理者施設、民間営利施設等）におけるマネジメントの基礎を学び、実際に運営されている施設において、2人組のフィールドワークを実施する。フィールドワークにおいて学んだマネジメント内容を基に2人1組によるプレゼンテーションを実施し、多様なスポーツ施設のマネジメント知識と現状に関する情報共有を行うことにより視野を広げる。現地調査とプレゼン準備・ディスカッションにおいて学んだ知識と経験は、スポーツ関連企業の分析と理解への大きな力になる。

#### 到達目標

本授業の到達目標は、以下の通りである。  
 知識・理解：多様なスポーツ施設マネジメントに関する用語や実際を理解できるようになる。  
 思考・判断：フィールドワークにおいて、施設マネジメントの強みや弱みを説明できるようになる。  
 関心・意欲・技術：スポーツ施設マネジメントのイノベーションを述べ、PPTでプレゼンができるようになる。

#### 提出課題

フィールドワークを実施し、プレゼンを行ったPPT資料に加え、ディスカッション・グループワーク等による学び・感想を記した最終レポートを提出課題とする。

#### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

プレゼンでは、他者評価（プレゼン実施者を除く）を行い、評価に反映する。プレゼンの講評については、講義の終わりに強みや弱みに関してコメントする。最終レポートは、フィールドワークでお世話になった施設担当者の方へも提出する。

#### 評価の基準

プレゼン（30%）、提出レポート（30%）、出席・授業態度・質問・コミュニケーション力（40%）。

#### 履修にあたっての注意・助言他

「スポーツマネジメント論」「スポーツビジネス論」「スポーツ文化論」「スポーツ組織論」の科目あるいは複数科目を履修し、単位取得したことを受講の前提条件とする。スポーツ施設へのフィールドワークの実施と、フィールドワークの成果に関するPPTによるプレゼンを主眼とした参加型授業で、学生の視野を広げ、実行力を伸ばす機会になる。遅刻者は、開始後15分以内とし、遅刻頻度が多い学生はフィールドワークを断念せざるを得ない。講義中の質問は加点する。また、個人用のUSBを毎回、持参すること。

#### 教科書

.使用しない。

#### 参考図書

.特になし。

#### その他

プリント資料は必要に応じて配布する。また、フィールドワークで訪ねるスポーツ施設のパンフレットおよび動画を使用する。

#### 授業計画

- オリエンテーション
- 講義（1：スポーツ施設経営）
- 講義（2：スポーツ施設の維持管理）
- 学内スポーツ施設見学（屋内）
- 学内スポーツ施設見学（屋外）
- ゲスト講師
- フィールドワークガイド
- フィールドワーク下調べ
- フィールドワーク
- プレゼン準備（1）
- プレゼン準備（2）
- プレゼン準備（3）
- プレゼン発表（1）
- プレゼン発表（2）とまとめ

#### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A・L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

#### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：各自今回の講義内容について、インターネットや新聞等を活用しながら自宅学習を実施しておくこと（2時間）。  
 復習：講義後に、本講義のまとめの部分を学生に提示するため、その部分の復習を毎日自宅で行うこと（2時間）。  
 課題：授業の最後に、毎回レポート課題を提示し、授業の最後または次の授業までに提出すること（2時間）。

#### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

< 学科共通 >  
 ますます高齢化社会が進む現代社会において、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業することができる。「する」「みる」「ささえる」の視点で踏まえながら、スポーツをキーワードとした専門的かつ実践的な施設運営の能力を身に付けることができる。そのため、DPに貢献し得る科目である。  
 < スポーツマネジメントコース >  
 「する」「みる」「ささえる」の視点で、スポーツをキーワードとする関連事業分野、業種において施設運営に携わることができる。スポーツ施設マネジメントでは、「する」「みる」「ささえる」の視点に立った運営実習が含まれている。よって、DPに貢献し得る科目である。健康課題やスポーツ産業などの多様な社会的背景と今後の課題と対応策について、分析、評価、企画を行うことができる。健康とスポーツ産業に関わる施設運営を通して、地域の社会課題解決を目指すことから、DPに貢献し得る科目である。

#### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

PPTによるプレゼンテーションにおいては、質問に対して丁寧かつ冷静に説明し、コミュニケーション能力を高める。また、ビジネスマナー講座においては、ベアラーニングを導入し、話し方やポイントの取り方、メール文書の書き方等を実践的に学ぶ。

#### 実務経験の有無及び活用

実務経験あり：スポーツ関連企業やスポーツイベント、健康関連産業とのネットワークを活かし、ゲスト講義の依頼や現場実習（フィールドワーク）、担当者へのプレゼンテーション機会を創出する。

#### 備考